



新春の光が降り注ぐ1月3日、町文化センターにて、令和8年二十歳を祝う会が開催されました。会場に集まった二十歳の門出を迎える参加者は、旧友や恩師との再会を喜び合う笑顔で溢れていました。肝付町も町制施行20周年という大きな節目を迎えました。新二十歳の皆さんは、まさにこの町と共に生まれ、成長してきた「町の同級生」です。学び舎を巣立ち、それぞれが異なる道を歩み始めた、肝付町の将来を担う皆さんの晴れの門出を、心よりお祝い申し上げます。



当日の様子をYouTubeで公開中です！



高山

新二十歳誓いの言葉

本日は二十歳を迎えました私たちの門出に対し、このような素晴らしい式典を執り行っていたいただき、誠にありがとうございます。また、ご多用の中ご臨席を賜り、温かい激励をくださった町長様をはじめとするすべての皆様に、新二十歳一同、心より御礼申し上げます。私たちは中学校・高校で過ごした日々は、新型コロナウイルスの影響により、多くの制限の中で学校生活でした。当たり前前だと思っていた日常が一変し、不安や戸惑いを感じることも少なくありませんでしたが、だからこそ仲間とともに

過ごす時間の尊さ、知恵を出し合い工夫することの大切さを学び、かけがえのない時間を過ごすことができました。これから先、想定外の出来事や不条理な状況に直面することもあるでしょう。そのような困難な局面においても立ち止まることなく、これまで経験してきた出来事を糧に、自身の成長に繋げ、邁進してまいります。

私自身も現在、電気インフラに関わる仕事に携わっており、日々業務に奮闘しておりますが、人々の生活を支える責任の重大さや実社会の厳しさに向き合うばかりであります。この仕事を通して、地域の安心と安全が多くの人の責任と不断の努力によって守られていることを強く実感するとともに、私たちが今日まで成長できたのは、家族や恩師、地域の方々の温かな支えがあったからこそだと、深く認識しております。

これまで育ててくださった肝付町への感謝を忘れず、今度は私たちがこの町を支える立場として、地域社会に貢献していくような日々精進していく所存です。それぞれが自分らしく輝き、責任ある行動ができる大人へと成長してまいります。最後になりますが、皆様への感謝を申し上げますとともに、肝付町の更なる発展を祈念いたしまして誓いの言葉とさせていただきます。



国見



代表 上酔尾風羽佳 (国見中出身)



内之浦

宮富



楠隼



波野

本日は、二十歳を迎えた私たちの門出に対し、このような素晴らしい式典を執り行っていたいただき、誠にありがとうございます。さらに、町長様をはじめ来賓の方々、ご出席いただいた皆様に二十歳一同、心よりお礼申し上げます。また、これまで私たちを温かく支えてくれた家族、苦楽を共にした友人、恩師や地域の方々など、私たちの成長に関わってくださったすべての方々に心より感謝いたします。

二十歳という節目を迎えた今、私は社会の一員として、また一人の人間として成長していきたいと将来に期待を膨らませていきます。その一方で、大人となって



代表 宮下湖太郎 (波野中出身)

いく自分の姿を、まだ想像できずにいる自分もいます。私はまだまだ未熟で、自分の至らなさを痛感し、立ち止まってしまふことが多々あります。しかし、そのような日々を過ごす中で、「様々なことに挑戦し、自分の意見をしっかりと持った大人」になりたいと強く思うようになりました。現在の日本社会は、相次ぐ地震や物価上昇など、常に変化し続けています。このような環境の中では、ただ見たり聞いたりするだけでは理解できないことが多く感じています。だからこそ、実際にやってみて肌で感じる大切であると学びました。年齢を重ねるにつれ、何も知らない自分に気後れしてしまうこともあるかもしれませんが、それでも恥をかくことを恐れず、果敢に挑戦していきたいような自分でありたいと思っております。この20年を振り返り、私は本当に人に恵まれていると実感します。間違いを正し、優しさも厳しさも与えてくれた家族や、支えてくれた地域の皆様があつてこそ、今の私があるのだと思います。今度私も誰かの支えになれるような存在になりたいと強く思います。最後になりますが、二十歳の皆様の活躍と、肝付町のさらなる発展を祈念いたしまして、誓いの言葉とさせていただきます。

※紙面の都合上、内容を一部抜粋して掲載しています